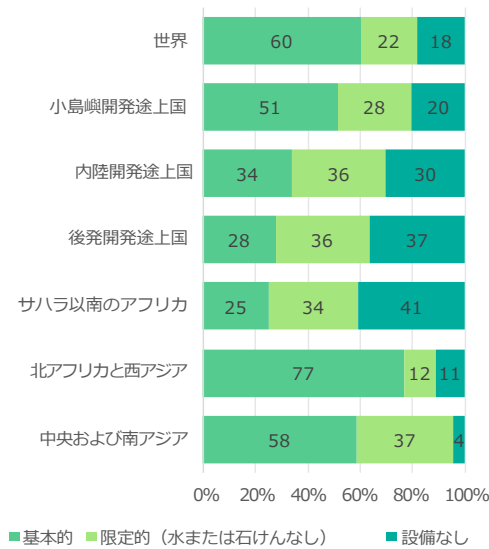


COVID-19は、特に最貧困層の子どもたちの生活に壊滅的な影響を及ぼしています

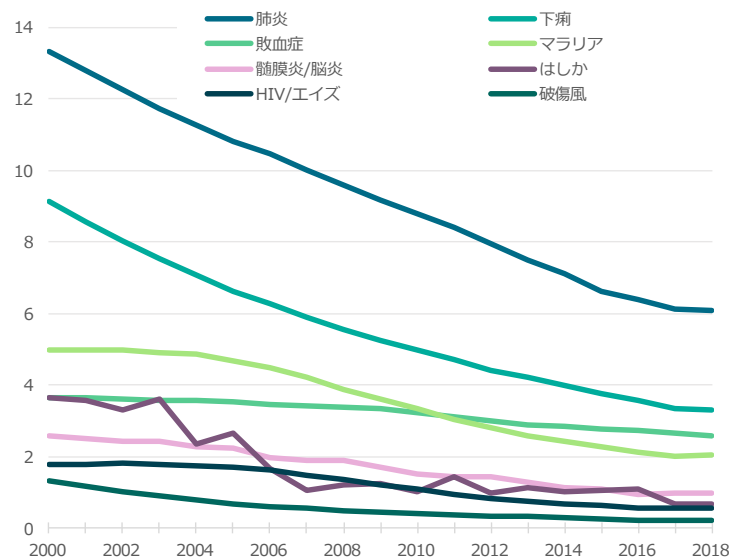
以前から置き去りにされていた子どもたちは、命を守る予防接種を逃したり、暴力のリスクが高まったり、教育を中断したりすることによって、パンデミックの影響の矢面に立たされるでしょう。

図1：自宅です洗い設備にアクセスできる人口の割合 2017年



出典：WHO/ユニセフ JMP報告書「飲み水と衛生の進歩と格差 (2000年～2017年)」(原題：Progress on household drinking water, sanitation and hygiene 2000-2017: Special focus on inequalities)

図2：主な感染症による5歳未満児死亡率の世界的傾向 原因ごとの5歳未満児死亡率(出生1,000人あたり) 2000年～2018年



出典：WHOとMCEGによる暫定的な推定値。2017年～2018年のUN IGME推定値に基づく

多くの子どもたち、特に最貧困国や最貧困層の子どもたちは、新型コロナウイルス感染症

(COVID-19)の拡大を緩和するために緊急の行動がとられない限り、肺炎、下痢性疾患、マラリア、HIV/エイズなどの予防や治療が可能な疾患で命を落とすリスクがあります。例えば、予防接種サービスが中断し続けると、肺炎で亡くなる子どもが増えるでしょう。現時点ですでに、肺炎によって5歳未満の子ども約80万人(1日あたり約2,200人)が1年間で死亡しています。

サハラ以南のアフリカの人口の約4分の3は、COVID-19の基本的な予防策である手洗いをするための設備が自宅になく、すでに弱い立場に置かれた人々がさらに不利な状況に置かれています。石けんと水で手を洗う設備が自宅にない人は世界で30億人にのぼり、そのうち16億人は石けんか水のどちらかが利用できず、14億人は設備が全くありません。従って、多くの人にとって、COVID-19の感染拡大を防ぐ最も基本的で効果的な対策は手の届かないところにあるということです。

COVID-19の封じ込め手段として学校の休校措置がとられ、テレビやラジオ番組などを通じた遠隔教育やオンライン授業などが一部の国で代替手段として展開されています。しかし、インターネットにアクセスできる世帯は世界全体で半数未満です。また、都市部では73パーセントの世帯がテレビを保有していますが、農村部でテレビを保有している世帯は38パーセントに留まります。パンデミックは、教育の危機をさらに深め、最も厳しい状況の子どもたちを置き去りにするリスクがあります。

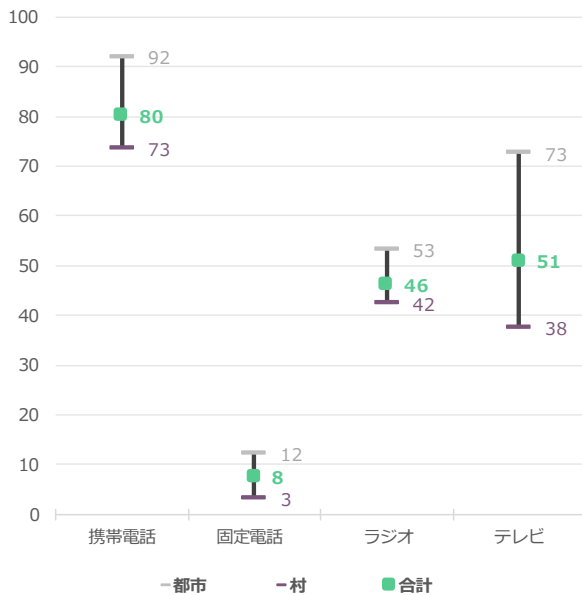
地域社会が崩壊するにつれて、すでに暴力、搾取、虐待のリスクにさらされている子どもたちは、さらに脆弱になります。1～14歳の子ども10人中約8人が、過去1カ月の間、自宅で保護者から何らかの形の心理的な暴力か体罰、またはその両方を受けました。そして、2～4歳の子どもの4人に3人が、自宅で保護者から言葉による暴力または体罰を受けています。さらに、これまでにパートナーを得たことのある15～49歳の女性と女の子の18パーセントが、パートナーからの身体的暴力か性的暴力、またはその両方を経験しています。

危機の間、特に今は、家庭内での親密なパートナーからの暴力を女の子や女性が受けるリスクが高まっています。

世界における子どもの難民1,300万人のうち、難民キャンプに暮らす人々も同様の課題に直面してい

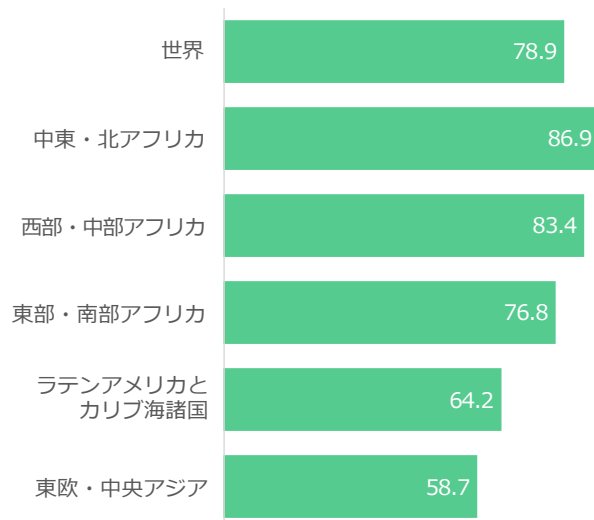
ます。100万人の子どもの庇護申請者や1,700万人の避難民の子どもとともに、社会的保護の枠から外される可能性が非常に高く、より安全な滞在資格の取得を妨げる移動制限によって影響を受けるおそれがあります。

図3：情報機器を保有する世帯 (%)



出典：2010年以降の人口保健調査（DHS）データのユニセフ分析に基づく

図4：過去1カ月の間、保護者による暴力的なしつけを受けた1～14歳の子ども (%)



出典：<https://data.unicef.org/>

注：推計における人口カバー率は、世界全体で28%、東欧・中央アジアで28%、西部・中部アフリカでは86%と地域ごとに異なる。東アジア・太平洋諸国と南アジアの人口カバー率は25%未満であったため、除外した。

メタデータ：

- <https://data.unicef.org/>